

57 ○長沙…ここでは「長沙傳」だった漢の賈誼をいう。賈誼は文帝の時謫せられて長沙王の太傅となったからい
 う。『漢語大詞典』には「指西漢賈誼。文帝時賈誼被謫為長沙王太傅故稱。」と説明し、「張九齡」の「詠
 史」中の「輕既長沙傳、重亦邊郡徒（亦省作長沙）」の句を載せる。『白氏文集』にも多用されており、
 以下その一例を挙げる。「0095 讀史五首」に「乃知汨羅恨、未抵長沙深」の句がみえる。『菅家後集』
 「504 官舎幽趣」には「忘却是身偏用意、優於誼舍在長沙」の用例が見える。↓補説①
 ○卑濕…「卑」は、低い所。「濕」は、うるおい。湿地帯。

『大漢和辭典』では、「低く湿り気が多い。またその土地。」と説明する。ここでは、賈誼が長沙王の
 太傅として「卑濕の地」長沙にいた故事を踏まえる。↓補説①
 58 ○湘水…河川名。汨羅の川に屈原が身を投げてから百年以上ののち、漢に賈誼という人がいて長沙の太傅とし
 て行く途中湘水に屈原を弔う文を投げ入れたという。

『史記』「屈原傳」「自屈原沈汨羅後百餘年 漢有賈生、為長沙王太傅過湘水投書、以弔屈原」の記事
 を指す語。

『漢語大詞典』には「即、湘江」と説明し、「東方朔」の「七諫・哀命」の「則汨羅之湘水兮、知時
 固而不反」の句および、杜甫の「建都十二韻」の「永負漢庭哭、遙憐湘水魂」の句を挙げる。↓補説②
 ○齋滌…水が深く広い様。 巡り流れる様。

59 ○爵 ……官、爵を受ける。 朝廷で爵位を受けること。

○崇品…高い位。ここでは、昌泰四（九〇二）年正月七日の除目で藤原時平と共に従二位になったことを指す。